

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

 公益財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

かめのり大学院留学アジア奨学生 証書授与式にて
奨学生、OB・OG、役員や選考委員が一堂に会しました。



2013年7月 No.13

今号の内容

- ◇第7回かめのり賞
募集のご案内
- ◇かめのり大学院留学 アジア奨学生
新奨学生の紹介
修了生の紹介
OB・OGからの便り
- ◇高校生交換留学・短期交流プログラム
アジア6か国から受入生来日
仲間からの便り
奨学生のことば

第7回かめのり賞 募集のご案内

かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰します。これまで、5個人、46団体を表彰しました。

現在、本年度の募集を受け付けていますので、多くの方からのご応募をお待ちしています。

応募の締め切りは、9月13日(金)必着です。

応募の対象

日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした次のような活動を行う、活動歴が5年以上のNPO(非営利団体)、ボランティアグループ、個人

- ①国際交流・協力にかかわる活動
- ②多文化共生にかかわる活動
- ③国際貢献に携わる人材を育成する活動

選考基準

次の点を総合的に評価します。

- ・これまでの活動における貢献度
 - ・活動の継続性や自主性、独自性
 - ・他団体との有機的な連携や協働、地域との結びつき
 - ・今後の活動への期待と将来の活動の可能性
- さらに、特に次の2点について焦点をあてている場合は加算要素となります。
- ・アジアの国、地域、人々を中心とした活動展開
 - ・若い世代の相互交流や人材育成

詳しい募集要項、応募用紙はホームページからダウンロードできます。

第7回かめのり賞募集要項

<http://www.kamenori.jp/kamenorishou.html>
Tel : 03-3234-1694 (平日 9:30-17:30)
E-mail : info@kamenori.jp



昨年度、第6回かめのり賞表彰式 / 本賞の記念の楯、副賞の活動奨励金を贈呈

かめのり大学院留学アジア奨学生

本年度、新たに3名の奨学生を迎え、4月7日(土)に証書授与式ならびに修了生のお祝い、そして役員や選考委員、OB・OGとの懇親会を行いました。



新たな出会いと再会の喜びに湧いた懇親会

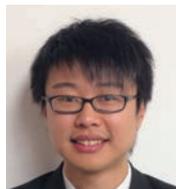
新奨学生の紹介



姜 民護(韓国)
Kang, MinHo
同志社大学
社会学研究科社会福祉学専攻
(博士後期課程)

私の研究テーマは「離婚によるひとり親家庭の子供のニーズに符合した支援の構築に関する研究」です。子どもが両親の離婚により抱えるニーズを把握した上で、それに符合した支援の構築を提言することが目的です。

私は、奨学生に選ばれた意義は大きく2つあり、若手研究者として成長の可能性が認められたこととその過程で必要な社会的・経済的安定への基盤が整えられたことだと思います。奨学金と財団関係者との出会いの場をいただけたというとても恵まれた環境の中で、研究に集中し、多様な業績を作っていきたいと思います。そして目標は、社会福祉学を専攻とした教育者になることです。最近、「正しい思想を持った人の力」がどれだけ重要なかを実感しており、目の前の困難な人を助けることはもちろん、助けようとする人を増やすことも重要だからです。その人々が増えれば増えるほど、世の中は幸せになるのではないのでしょうか。



周 鑫(中国)
Zhou, Xin
一橋大学
法学研究科 法学・国際関係専攻
(博士後期課程)

2010年、留学する前に、国際学生交流団員として、私は日本の大学を訪れたことがあります。この訪問をきっかけに「日本へ留学しよう」と決めました。

あれからもうすぐ3年が経ち、この4月から博士後期課程に進学しました。修士段階の研究に引き続き、中国独占禁止法における企業結合規制をより深く研究し、特に問題解消措置の構築と監督に焦点を置きたいです。

これからの留学生活も、日本文化や社会について知識を広められるように積極的に取り組んでいき、国際友好親善活動にも参加していきたいと考えています。そして、博士号を取得し、中国に帰って大学の先生になりたいです。私の未来の学生たちに対して、知識だけでなく、「ゼミ」のような教育方式も体験させて、その上で日中友好且つ各国の親善を促進できるように取り組んでいくことが目標です。



張 碩(中国)
Zhang, Shuo
大阪大学 言語文化研究科
日本語・日本文化専攻
(博士前期課程)

私は現在、日本語と中国語の複合動詞の対照的研究をしており、日本語教師を目指しています。日本語と中国語の学習者にとっては、複合動詞の習得が非常に難しいです。日中両言語における複合動詞の性質に対する考察を通して、学習者の学習効率を向上させることを研究の目標としており、日本人と中国人のコミュニケーションがより円滑に進むよう研究の成果を生かしていきたいと思っています。

私はかめのり財団の理念に非常に共鳴しています。将来教育者として、自分の学んだ日本語の知識と肌で感じた日本人の心を中国の人々に伝えることによって、一人でも多くの中国人に日本を好きになってほしいと考えています。これからは、かめのり財団の奨学生として、積極的に国際交流活動に参加し、日本と中国の架け橋になるために力を尽くしていきたいと思っています。

修了生の紹介



史 明洲(中国) Shi, Mingzhou
現在、一橋大学 法学研究科(博士後期課程 1回生)
2013年3月、同修士課程修了

「研究者人生の第一歩とこれから」
～奨学生としての2年間の経験をこれからにつなぐ～

2011年4月から2013年3月までの間、かめのり財団の奨学生として研究者人生の最初の2年間を送りました。修士課程を卒業してから、博士後期課程に進み、「強制執行」という法的手段で「正義を実現する方法」を研究しています。

研究者の人生には到達点までの道が用意されていません。むしろ、大物の研究者とは誰も

踏んだことがない道を切り開いた者が多いようですが、財団奨学生に採用された時に私はまだ研究実績が真っ白で、言い換えれば、「アフリカの砂漠をさまよひ、南に行くかそれとも北に行くかさえわからなかった時期」でした。

精神的に最も孤独であった時に、かめのり財団という「ファミリー」とまさに「運命の



2年間を振り返り、今後の活躍を誓う史さん

出会い」ができました。その後、財団の経済的・精神的な支えのおかげで、私は試行錯誤を重ねながら白いキャンパスに自分にふさわしい道を描き、研究者人生の満足した第一歩を踏み出して、そしてこれからも「強制執行における苛酷執行禁止の法的規律」の課題を解き続けていきたいと思っています。

OB・OGからの便り 今、心にある思いや近況についてつづってくださいました。



金 東煥 (韓国) Kim, Dong Hwan
現在、立命館大学 政策科学研究科 (博士後期課程 3 回生)
2008 年～2010 年 奨学金受給

「絆」

～韓国と日本の家族をつなぎ、そして両国をつなぐ～

私には日本人の家族がいる。韓国が日本の植民地であった時代、日本に定着した私の曾祖父は、日本人の女性と結婚し、二人の子供を生んだ。その子供は、日本・大阪で生まれ育ち、韓国語は話せなく、現在は日本国籍を持っている。私の祖父は、植民地時代に初等教育を受けたので、日本人並みの日本語能力を持っていた。そのお陰で、日本の家族との頻繁な交流が可能であった。日本から私の故郷である韓国・済州 (Jeju) に来る度に頂いた日本のお菓子は私にとって最高のプレゼントであったし、日本語が出来なかったものの、祖父を通じて会話を交わした思い出は、まだ記憶に新しい。

しかし、祖父以外には、日本語が話せる家族がいなかったため、祖父がいないと、日本の家族との「絆」は無くなってしまわないか、と

思い始めた。家族は、私にとって最優先すべき価値のあるものである。たとえ、その家族が日本人であっても、その価値は変わらない。私が日本にいる家族との「絆」になりたい、その思いが日本留学のきっかけなのである。だから、日本語の勉強に一生懸命取り組むことができた。振り返ってみれば、歴史は繰り返すものだと思う。70 余年前、曾祖父が日本に来たように、今、私も日本に来て、悲しいことに祖父は亡くなったが、私の存在は祖父のように、韓国と日本にいる家族の「絆」になっている。

私は、韓国で政治を学んだ。そして、今、日本で世界を学んでいる。世界の学生らと議論を交わしながら、思想を共有し、相違を尊び、その相違を認めていく。「近くても遠い国、日本」。韓国では、日本をこう呼ぶ。複雑な両国の関係を表



近況を役員へ報告する金さん (左端)

す言葉であろう。こんな時期だからこそ、日韓の友好関係が求められる。日韓友好関係の構築は、日韓だけでなく、東アジア、ひいては世界平和に貢献することにつながると確信している。今こそ、両国の事情に詳しくて、未来志向的な考え方を有している人材の役割が重要になると思われる。

かめり財団の理念は、若い世代の交流を通じて、未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、その懸け橋となるグローバル・リーダーを育成することにある。かめり財団のお陰で、日本で研究している私が、日本と韓国の家族の「絆」になったように、日韓友好関係の「絆」としての役割に堂々と挑戦させていただきたい。



趙 賢雅 (韓国) Jo, Hyeon A
2011 年 3 月、立命館大学 言語教育情報研究科 (博士前期課程) 修了
現在、韓国・国立公州大学 韓国語専任講師

「日本での経験を生かしながら」

～韓国語教師として日本での留学経験を韓国でつなぐ～

私は 2009 年から 2 年間、かめり財団の奨学生として、日本語教育に関する研究をしました。修了後は、学部の専攻が韓国語教育であり韓国語の教員免許を持っているということで、京都にある韓国系の高校で韓国語教師を務めていました。その後、昨年 4 月から韓国に帰国し、国立公州大学にて非常勤講師として韓国語を教え、今年 1 月からは専任講師として新たなスタートを切りました。

韓国には日本の文部科学省にあたる教育科学技術部があり、その中に国立国際教育院 (NIIED) という日本の国際交流基金と似たような国策事業を実施している機関があります。その事業の一つに在外韓国人を招いて、3 ヶ月 (短期) または 8 ヶ月 (長期) の期間、韓国語や韓国の歴史と文化などの授業を通じて母国である韓国への理解を深めてもらうことを目的とした「在外同胞母国修学教育課程」というプログラムがあり

ます。これを公州大学で運営しており、私はその中で韓国語の授業を担当しています。

昨年の場合、200 人あまりがプログラムに参加し、約 40% が在日韓国人でした。日本生まれの日本育ちで韓国語はあいさつ程度しか話せない学生たちに囲まれ、日本語を話す機会も多く日本に留学していた時とあまり変わらない生活を送りながら、8 ヶ月のプログラムを終えました。その中で感じたことは「ここが、自分のいるべき場所だ」ということです。在外韓国人に韓国語を教えるだけでなく、私が日本に留学していた時に感じていたカルチャーショックや交友関係などで悩む学生たちの相談にのり、時には韓国語の先生として、時には留学経験のある先輩として、時には人生の先輩として、私を訪ねてくる学生たちと色々な話しをする機会が多くあります。日本だけでなくアジア、欧米、南米などさまざまな文化と考え方を持っている学



教え子の学生たちと (前列左端が趙さん)

生たちから私も多くのことを学んでいます。語学教師になるという希望が叶い、さらに日本での留学経験がさまざまな面で生かされ、仕事が楽しくやがいを感じています。

この他にも、外国人教員研修、在外韓国人教育に携わる教員や関係者を対象とした研修にもかかわらず、韓国語を学びに来た日本人大学生の授業も行っています。日本の優秀な大学生が韓国語を学びに来ている姿を見てとても嬉しく感じ、より充実した教育サービスができるようもっと努力しようと思います。

このような仕事にめぐり会えたのも、日本での大学院生活を支えてくれたかめり財団の皆さんのおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。そのご恩に報いるためにもこれからも前を向いてしっかりと進んでいきます。

高校生交換留学・短期交流プログラム

アジア6か国から受入生来日

(公財)AFS日本協会が実施するプログラムで、8名の受入生が3月に来日。ホームステイをしながら高校に通い、語学だけではなく、日本の習慣や文化などを学び、さまざまな人々との交流を通して相互理解を深めています。受入生は、北は北海道から南は長崎とそれぞれの地域で、多くの人の支援を受けながら、日本での異文化体験を楽しんでいます。

日本滞在中の目標

「将来は記者になりたいので、日本の難しい本と新聞を理解できるようになりたい」

「日本語能力を高め、多くの日本人とよい交流関係を築きたい」

「書道や弓道、お祭りに参加し、日本の文化への理解を深めたい」

「日本で多くのこと学びながら、タイについても知ってもらい、相互理解を進めたい」



来日後の懇談会

奨学生のこぼれ 体験レポートの中から、印象に残る文を紹介します。

タイで新たに学んだことは、「頑張り屋さん」は「失敗屋さん」でもあるということ。失敗や苦難に出会わなければ、絶対に良い結果に繋がりはしないし、もし失敗せずして成功したとしても二回目の成功の可能性は限りなく低いものになるでしょう。身体や頭を使って苦労してつかんだ成果は、体に染み着いて忘れないし、そこからどんな問題にでも対処できる力を持っています。留学生活を通して失敗から多くを学んだと言えます。「努力」は世界共通だということを知りました。

また、留学生活を通して私は生きていく上で最も大切な「人は一人では、生きてはゆけない」

ことを学びました。周りを見渡すと、たくさんの人が支え、支えられて過ごしています。タイ人は「人と人の繋がりの文化」を大切にしている、この文化は私に刺激を与えました。実際にタイでは、私は「孤独」だと思っていました。しかし自分が見えていないだけで、たくさんの人が私を見守ってくれていたのです。見方を変えただけで、支えてくれている人の存在を知ることができ、何よりも心強く頑張るための糧になりました。

菅原 千尋

2012年5月からタイに留学
2013年3月帰国



仲間からの便り

先輩へのメッセージ

大学生になってから、日本アセアンセンターの交流イベントに参加するなど、積極的にアセアン出身の留学生とのつながりを広げています。また、9月から中国福建省の廈門(アモイ)大学に留学予定です。高校生で中国短期留学を経験し、これから留学する後輩たちに伝えたいのは、「文化・習慣の違いを目の当たりにしたとき、それに対して自国の価値基準で安易に判断を下すのではなく、一度本質に立ち返ってじっくりと考えてほしい」ということです。外国へ行くと、日本の常識では考えられないような価値観の中で生活している人々に出会うことがありますが、それを安易に否定したり、拒絶したりしないでほしいと思います。むしろ「そのような価値観が生まれた背景には何があるのか」や「なぜ日本には存在しないのか」という根本的な部分を問い直すきっかけにしてほしいです。そうすることで、異文化の中で生活する人々への理解が深まり、「違い」に遭遇することがとても楽しくなります。様々な価値観に触れ、他国の良さを吸収するなかで、自分独自の価値基準を創出し、どこの国にいたとしてもそれに従って思考し、行動してほしいと思います。

山縣 梨華子

2010年中国へ短期留学。現在、日本女子大学3年



交流イベントで日本文化を紹介する山縣さん。

今後の予定

7月 王敏理事講演会

愛媛県農業教育者連盟農業教育研究会内にて開催

国際交流事業助成 交付式・ワークショップ・報告会

8月 【高校生短期】第6期生韓国へ出発

9月 にほんご人フォーラム2013開催

10月 第5回中学生交流プログラム(派遣)実施(ベトナム)

<< 編集後記 >>

近年、日本の若い世代が「内向き」になっていると言われていたが、かめのり財団に関係する学生たちは、高校生で留学を経験し、大学生になってからもアジアの大学へ留学する機会をつかんでいる。また、多くの大学生が、夏休みに他のアジアの大学生と共に学生会議を開催すべく尽力している姿を目にする。そのような若い世代を応援していくことで、個と個の相互理解の深まりを期待したい。(菊地)

発行人 / 西田 浩子

編集 / 菊地 佐智子

デザイン/イワフチサトシ (BUTI design)

印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694

FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp

URL : http://www.kamenori.jp/